

博士論文

NICU 入院経験児をもつ夫婦における  
関係性の心理的プロセス

2017 年度

大学院心理学研究科臨床心理学専攻

荒川 恵美子

東京成徳大学

## 【論文概要】

本研究では、NICU 入院経験児をもつ夫婦がどのような心理的プロセスをたどるのか、また夫婦の間でどのような思いの違いがあるのかについてを明らかにすることを目的とした。

研究Ⅰでは、日本における夫婦の妊娠期から育児期における関係性と調整に関する研究の動向を論文により明らかにし、今後の研究課題を検討した。医学中央雑誌, CiNii にて「夫婦関係」「子育て」「育児」「調整」をキーワードに 1987 年から 2016 年までの原著論文を検索し、量的研究論文 16 編と質的研究論文 6 編などの論文内容を分析した。その結果「情緒」「メンタルヘルス」「役割」「サポート」の 4 つのテーマに分類することができた。研究Ⅱでは、妻の妊娠から NICU 入院中、退院後 1 年くらいの間の、夫から父親への心理的変化のプロセスを明らかにした。半構造化面接のインタビュー調査を行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析による質的研究を行った。その結果【父親自覚の萌芽】【緊迫感の中での父親体験】【父親である実感】【父親に慣れていく】【夫としての援助者役割】【支えられることを味わう】【医療から離れた不安と困難】【医療者への感謝と不満】の 8 カテゴリーが生成された。研究Ⅲでは、2016 年 6～11 月末までに保育園等 798 組に質問紙を配布し、146 組（NICU 入院経験あり 24 組）の夫婦データが回収された（有効回収率 18%）。第 1 子出産前後における夫婦の思いの違いとその調整方略を明らかにすることと、第 1 子の NICU 入院経験の有無が、第 1 子出産前後における夫婦の思いの違いと調整方略にどのように関連があるかについて検証した。その結果、出産前後の思いの違いがあり、夫婦の思いの違いと調整の一部の変数が子どもの NICU 入院経験と有意な関連を示した。研究Ⅳでは、NICU 入院経験児をもつ夫婦の思いの違いに

ついて、その心理的プロセスを明らかにすることを目的とした。調査協力者は NICU 入院経験児をもつ夫婦 10 組で、夫婦別々にインタビューを行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを援用して分析を行った。妊娠中、NICU 入院中、退院後という時間の流れと、時間の流れを超えた [夫婦への思い] [わが子への思い] [医療への思い] [日常への思い] の 4 つの夫婦共通テーマである「領域」が生成された。最後に研究 I ～IV を総合して、NICU 入院経験児をもつ夫婦の思いの違いと、妊娠中、NICU 入院中、退院後における夫婦への心理的サポートについても検討した。